

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372601221
法人名	社会福祉法人 久仙会
事業所名	グループホーム たしま友遊苑
訪問調査日	平成 21 年 2 月 12 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 4 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月27日

【評価実施概要】

事業所番号	4372601221
法人名	社会福祉法人 久仙会
事業所名	グループホーム たしま友遊苑
所在地	熊本県菊池市泗水町田島616-1 (電話) 0968-38-7147

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成21年2月12日	評価確定日	平成21年3月4日

【情報提供票より】(20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	13人, 非常勤 3人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 1000 円		

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岸病院 長野歯科 菊池有働病院 国立菊池病院 西合志病院 岸眼科
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

今年度はホーム長が管理者を兼ねる等新体制となっているが、運営推進会議やホームの地域交流広場を活かし、自治会や保育園・小学校等との相互交流が常態化していることが開所時からのアルバムで確認することができ、入居者の生きがい作りへの一旦となっている。入居者は入替わりもほとんど無いが重度化が進んでおり、機能低下や転倒防止に職員手作りの木柵が活かされ、家族と連携を図りながら日々健康管理に努めており穏やかな日常生活となって表出されている。単独のホームながら全職員が最期まで支えて生きたいと情報の共有や意思の統一、ユニット同士が協力してターミナルケアに当たり、今では回復し居から出て食事をされる様子から質の高いケアの実践であることを確認した。地域に向けて認知症ケア推進に取組む意向であり、今後の更なる発展が期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営推進会議の場で前回の評価について話し合い、居室の環境整備に家族の協力が得られる等具体的な改善へとつなげている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が評価の意義を理解し、年1回の総まとめとしての勉強会として活用している。自己評価についてはホーム長が原案を作り、職員全員に項目を振り分け、各ユニットが勉強会の中で話し合い、全員の意見を集約したものである。職員の建設的な意見に優先順位を付け、改善できる項目からスタートし現段階で目標達成の項目もあり、積極的な姿勢でサービス向上に取組んでいることが窺われる。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月毎と定例化した運営推進会議は行政、民生委員、小学校、家族等が参加して活動報告の他、今年度は特にひやりはつとに時間をかけ説明したとのことである。このホームの会議の特徴は透明化を図っていることであり、入居者状況、病院受診提供状況、ひやりはつとでは内容から対処まで、合同レク・個別レクレーション状況、利用料金及び実費負担金額の状況、職員配置等資料を配布し説明している。職員に事前資料を配布し、委員からの意見を全員に説明し、サービス向上に活かしている。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時を意見や要望等の問題提起の場としているが運営上での意見や苦情は寄せられていない。運営推進会議の参加時に家族の相談を受けたり、外部評価のアンケートを重要視し職員と話し合い、家族に丁寧な説明により理解を得るよう努力している。ホームの苦情相談窓口と県・市役所の担当部署を重要事項に明記し、ホーム内に掲示している。月初請求書に生活の様子や予定等の連絡事項を掲載した友遊通信と職員の手紙を添え家族に送付し、病状変化や受診時等に随時電話連絡により家族との連携を図っている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームの地域交流広場を自治会会場や近くの保育園のクリスマス発表会会場として提供し交流を図ったり、小学校や保育園の運動会へ招待される等相互交流を図っている。また、小学生の総合学習を受け入れるため、事前にホーム長が小学校で出前講座を開き、子どもたちの質問攻めにあつたこと等確認でき、子どもたちも高齢者と仲良くするためにどうすればよいかを考えて訪問している。子どもたちと入居者の関わりが継続していることやサックス演奏等のボランティアの訪問があることも多くの写真より窺われた。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念の6項目の他、ホーム独自に「地域(人)に愛されるホーム」を理念に掲げている。愛されるホームとしての地域への啓発が団地の子どもたちが気楽に遊びに立ち寄ってくれるようになる等実を結び、運営理念に利用者との経験を活かせるように、多彩な余暇活動や地域との交流に努めることをあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関入口に理念を大きく掲示し、職員への意識付けや訪問者への啓発とし、理念をケアに活かすよう具体的に取組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの地域交流広場を自治会会場や近くの保育園のクリスマス発表会会場として提供し交流を図ったり、小学校や保育園の運動会へ招待される等相互交流を図っている。また、小学生の総合学習を受け入れるため、事前にホーム長が小学校で出前講座を開き、子どもたちの質問攻めにあったこと等確認でき、子どもたちも高齢者と仲良くするためにはどうすればよいかを考えて訪問している。子どもたちと入居者の関わりが継続していることやサックス演奏等のボランティアの訪問があることも多くの写真より窺われた。	○	ホームの啓発が地域住民の夏祭りへの参加や団地の子どもたちが気軽に訪問してくれるようになってきている。ホーム長は地域に向けて認知症ケア推進としてサポーター研修会に取り組む意向であり、今後も地域との交流に大いに期待できる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価の意義を理解し、年1回の総まとめとしての勉強会として活用している。運営推進会議の場で前回の評価について話し合い、居室の環境整備に家族の協力が得られる等具体的な改善へとつなげている。自己評価についてはホーム長が原案を作り、職員全員に項目を振り分け、各ユニットが勉強会の中で話し合い、全員の意見を集約したものである。職員の建設的な意見に優先順位を付け、改善できる項目からスタートし現段階で目標達成の項目もあり、積極的な姿勢でサービス向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎と定例化した運営推進会議は行政、民生委員、小学校、家族等が参加して活動報告の他、今年度は特にひやりはつとに時間をかけ説明したとのことである。このホームの会議の特徴は透明化を図っていることであり、入居者状況、病院受診提供状況、ひやりはつとでは内容から対処まで、合同レク・個別レクレーション状況、利用料金及び実費負担金額の状況、職員配置等資料を配布し説明している。職員に事前資料を配布し、委員からの意見を全員に説明し、サービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者の運営推進会議への出席や行政の監査を受けている。スプリンクラーの設置に早速助成金を申込む等行政からの情報をホーム運営に活用している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月初請求書に生活の様子や予定等の連絡事項を掲載した友遊通信と職員の手紙を添え家族に送付し、病状変化や受診時等に随時電話連絡により家族との連携を図っている。金銭は預からず立替え払いとしているが、家族から料金使途を明確にしてほしいとの意見から領収書を添付し家族に送付することに変更している。年末特大号の友遊通信に全職員の紹介と抱負を掲載していたがこの1・2年は滞っており、新人職員は運営推進会議で紹介している。	○	友遊通信による職員紹介を再開し家族への周知に努める意向である。4月には新規採用も決定しており、ユニットへの掲示等も検討いただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時を意見や要望等の問題提起の場としているが運営上での意見や苦情は寄せられていない。運営推進会議の参加時に家族の相談を受けたり、外部評価のアンケートを重要視し職員と話し、家族に丁寧な説明により理解を得るよう努力している。ホームの苦情相談窓口と県・市役所の担当部署を重要事項に明記し、ホーム内に掲示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者の心身の状況の違いや全職員が全入居者の状態を把握することも必要であるとユニット間の異動を行っている。今年は管理者等3名の離職があるが、入居者・家族・職員との馴染みでの関係を大事にした支援に取り組んでいる。入職後1ヶ月間の研修期間をダブルシフトとし、今年4月から新規採用の学生は入居者との関係を築くため、あらかじめアルバイトをしている。		

5. 人材の育成と支援

10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会等の外部研修や日々の申送りの中で介護技術を指導しあったり、入職時基本的な指導や入居者個々のケア方法、夜勤対応等先輩職員が支えながら習得する仕組みが構築している。ホーム長は職員の資格取得を推奨し資金面でのバックアップや、試験に向け勤務調整を行い、今年度は介護福祉士や社会福祉士に多くの職員が挑戦している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者研修や菊池・山鹿連絡協議会等の会議や研修会に積極的に参加し、情報収集や交流の機会を通じネットワークを作りサービス向上に取り組んでいる。		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得した上で入居に至るように入居者自身が自分の中で決着をつけるため、遠方にいる家族と数ヶ月生活をしながら入居されたケースがある。入居までに本人が過ごしやすい住環境を家族と相談しながら整備し、入居後も家族は電話や手紙で、入居者も家族に手紙で連絡するなどお互いの絆を絶やさないうよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で昔の話をしたり、一緒に生活する喜びや悲しみを分かち合う擬似的な家族関係を作ることや自然な言葉で声かけしながら、お互いが親近感を持ちあう関係作りに取り組んでいる。重度化が進み、ゆとりある介護は難しくなってきたとのことだが、今後も支えあう関係の構築に継続して取り組む意向である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントで得た情報のほか、日々の生活の中で言動や表情、しぐさ等から察知し、一人ひとりの思いや満足感を探り、送りノートを活用し情報を共有し本人本位となるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時家族に人生歴を記入してもらい、1ヶ月は本人の状態把握に努め、詳細な記録を取り、日々の生活の中で希望や意向を引き出し、家族にも手紙で状況を説明しプランに反映させている。家族の意向や職員の観察の結果が反映した個別的な介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しの他、毎朝ケアカンファレンスを行い、ケア方法等即効性が重要であると介護計画書に朱書きで追加し現状に即したケアに努めている。終末期ケアには家族やかかりつけ医等関係者と協議のうえ、新たなプランを作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日々の健康管理や医療との連携、インスリンの投与をする入居者には注射部位のローテーションや血糖値を測定し記録に残したり、医療的な治療を受けながら重度化でもホームでの生活を継続している。病院受診対応はホーム職員が行い、個別買物への同行やホームの地域交流広場を自治会や保育園のクリスマス会の場所として提供している。また、ホーム長は小学校で出前講座を行う等ホームの持つ機能を柔軟に発揮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族へ説明しホーム近くの往診可能な協力医へ変更したり、家族から同意書を受入れ精神科等の専門分野への受診となっており受診対応はホーム側が行い、受診後家族に説明を行い情報を共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に向け医療連携指針を作成し、本人や家族の意向により、職員が一丸となりターミナルケアに取り組まれている。ターミナルケアから回復され、自宅への帰省も叶うなど質の高いケアの実践であることが確認できた。ターミナル協議書を何度も作り直し、消防署やかかりつけ医・家族と連携を図り、回復された時点で記録物を家族へ渡している。その経験が活かされ、現在も緊急連絡体制を確保し、全職員が方針を一つに取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの思いを大切に個々の生活歴や性格等の情報を収集し、親しき中にも尊敬の念を持ってケアにあたっている。職員の腰をおって耳元での声かけや自然な会話、トイレ誘導時の対応等からもプライバシーに配慮していることが確認できたが、時には動議付けに大声で話すことも致し方ないと考えている。日々の記録物は入居者に目立たないようワンシートとして、廃棄処分までの保管も厳重に管理している。職員の入退職時に守秘義務についての同意書を受入れている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりを観察し24時間シートを作成しているが、本人の好きなききに好きのように支援している。自立した生活で居室での生活が中心となりテレビを見て夜更かしされる入居者、散歩に一人で出かけられる人等強制することなく個々の思いを大切にしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日食材の買出しに同行される入居者、米とぎを自分の役割と自信を持って行われる男性入居者、おしぼりの準備や得意の団子作りに取り組む入居者等個々の力量を発揮できる場面を作り、役割分担しながら一緒に取り組んでいる。職員も同じテーブルで、家族の同意を得て一部介助したり、食事の進み具合を確認したりと和やかな食事となっている。行事食やハイキングに手作り弁当等も楽しみ事の一つになっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	自立した入居者や意思表示される入居者は希望の時間帯の入浴、全介助の入居者にはその日の職員配置により計画した入浴となっている。入浴拒否もあり、入浴チェック表を活用し職員の工夫した声かけや家族の協力を得たり、仲の良い人と一緒に入ってもらう等により間隔の清潔保持に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や心身の状態を把握し、一人ひとりに役割や出番の機会を作っている。うさぎの世話や食器拭き、おしぼり担当、米とぎ係りとして男性入居者も活躍されている。月1回のレクリエーション行事や季節毎の外出支援も楽しみ事となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日食材の買物へ同行される入居者や家族の同意を得てプレートを付け1時間ほど一人で田んぼの周辺を散歩される入居者、気候が良くなると数名での散歩等外出を支援している。入居者一人ひとりのレベルに合わせた外出支援は難しいとのことであり、家族の訪問時に散歩や受診支援等協力を呼びかけていく意向である。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はユニットからの目が届かない状態であり、危険防止に外へはロックがかかり、外からは自由に入ることが出来る。居室は出入りの時と夜間に自分で鍵をかけられる入居者もおられるがほとんどの居室にいつもオープンにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年度は消防法の改正により管理者が防火管理者講習に参加し防火訓練を実施している。また、消防署の立ち入り検査も受けており、消防署からの課題を検証し全職員に説明し不安解消に努めている。防災設備も整備し消火器6本の設置や自主点検を行っている。21年度にはスプリンクラーの設置予定もある。	○	今年5月には防火非難訓練の予定もあり、応急手当訓練も採り入れる意向であることが聞き取りの中で窺われた。参加可能な入居者も一緒に行われることも検討いただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護日誌にバイタルとともに食事状態を記録し、栄養管理に活かしている。入居者の咀嚼や嚥下状態に応じ細やかな支援が行われ、水分補給は毎食時や10時・3時・入浴後の他、居室にポットを用意している人、入眠前にペットボトルを置いたり、ヨーグルト・りんごジュース・コーヒー等お茶代わりに用意し水分の確保に努めている。献立表の前には入居者の好き嫌いを記載し、肉の代わりに卵を使ったり、見た目から食べられない入居者には原型を残さないように献立を工夫したり、ご飯をおにぎりにしてみたりと個別的な支援となっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面のシーサーが母体法人が沖縄であることをイメージさせ、玄関周辺の花壇やプランターに季節の花が植えられている。各ユニットともにキッチンを中心とした居室配置が入居者の所在確認と調理の音や匂い等生活感を感じさせている。階段はホームの写真館として活かされ、地域交流スペースの開所時よりのアルバムも来訪所に楽しみを与えている。季節により風通しに窓を開けており、隣接の保育園児の歓声や賑わいもまた入居者の楽しみになっている。室内の適宜の温度管理や異臭対策等の細やかな心配りが行届き、居心地良く過ごす工夫が随所に見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洗面台が付けられホーム側が和・洋室に対応する為、高さの違う2種類のベッドを用意し、機能低下に低床ベッドから高いベッドへ変更したり、転倒予防策に手作りの木柵を利用した安全面への取みが反映し、タンスや日用品・家族写真等持ち込まれ、家族の意向でもある居室の整理整頓に対し、ホームが提案し整理用ケースを取り付けている。プランターで花を育てたりと入居者の思いや家族の思いが反映し、生活感のある居室である。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人久仙会 たしま友遊苑
(ユニット名)	1Fユニット
所在地 (県・市町村名)	熊本県 菊池市 泗水町 田島 616-1
記入者名 (管理者)	谷口 勇一 (ホーム長)
記入日	平成21年1月16日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自に「地域(人)に愛されるホーム」を理念として心がけてきた。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着型サービス事業所として、地域に根ざした事業所になるよう、独自の夏祭りを開催するなどして、地域交流に努めてきた。特に、保育園・小学校児童との交流には、学校長先生や保育園長先生の協力を頂いた。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関入口に、理念はもとより、重要事項説明書の掲示を行うとともに、毎月の行事計画も展示して周知に努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	温泉施設の方や、団地の方などの挨拶に心がけている。独自の夏祭りには、チラシを団地内の各家庭へ配布し、たしま友遊苑の認知度向上・地域交流に努めている。	団地の方には、あまり興味がないようでなかなか、お茶のみに立ち寄るとか気軽な来訪にはなっていない。また、玄関口に地域交流広場を設けているが、レク活動以外時は、無人となるため、立ち寄り難い面があるのかもしれない。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域交流広場を自治会会場として提供している。また、来訪者にはお茶などのサービスを行っている。地域行事には可能な限り利用者を伴って参加している。また、パチンコ屋さんのボランティア案内でパチンコ祭りには、現役当時大好きだった利用者に参加して頂いた。	身体的レベル・認知症レベルで全ての利用者・職員が地域行事に参加することができない。また、小規模での交替勤務では、地域行事参加に対して弾力的な対応(職員配置勤務表と行事案内のタイムラグ)は困難である。
6	<input type="checkbox"/> 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域社協との連携で家族介護教室への会場提供及び参加をしてきた。新たに発足される地域支援活動の発足セミナーに参加してきた。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価勉強会を行い、全ての職員の意見反映及び意見集約・運営者から見る評価の協議を行った。また、改善項目は、運営推進会議にも図り、可能なものについて改善するよう努めてきた。</p>	<p>○</p> <p>経費が発生するものは、家族負担ともなり、できない面がある。運営推進会議への家族参加と、改善すべき問題点の家族共有が課題である。(部屋が散らかっている・収納ケースが不足・購入には経費がかかる・同意が得られない・居室内の立入を拒む利用者等の課題) 家族からの協力及び家族への働きかけに努力したい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営会議では、サービスの内容を詳細な資料として作成配布して話し合っている。また、外部評価結果・指摘事項・改善項目・外部評価時の様子など、運営推進会議で報告し、家族意見も集約した。</p>	<p>スタッフ数の限界・家族からの意見が少ない(遠慮されている)などで、全てをくみ上げてサービス向上に活かされるとは限らない。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に行政担当者も構成委員になってもらっている。可能な限り行き来するよう努めている。また、指定研修の申込には、行政サイドに相談にのって頂き、協力と理解を頂いている。</p>	<p>運営者・管理者を含む全ての職員が介護業務を兼務しているため、窓口となっていていつでも動ける環境にない。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>運営者が相談窓口となっている。成年後見人制度手続の相談があれば協力する姿勢でいる。</p>	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修会・セミナーがあれば積極的に参加を促す。特に、管理者や相談員の職責にいる者は現場責任者であることを自覚し、注意するよう促している。</p>	<p>○</p> <p>職員にその気持ちがあるわけではなくても、言葉の暴力につながりかねない言葉使いがある場合がある。冗談のつもりで発した言葉でも、言葉使いで「言葉の虐待」になる時がある。管理者を含めて今後も注意を払うよう促していきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居相談時に、重要事項説明書を渡して説明。一問一答式で対話している。入居契約前に事前に契約書を渡して、熟読と再考を促している。</p>	<p>○</p> <p>家族との間で入居後のトラブルはないものの、誤解がある場合がある。入居後も可能な限り家族とのコミュニケーションの必要性を感じている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口責任者を設置している。また、苦情相談窓口として、県・市役所の担当部署の電話番号も、重要事項説明書に記載して紹介している。		利用者の苦情や相談は、運営者・管理者が直接、話を聞いて苦情・相談解決に取り組んでいる。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、家族へ発送する「友遊通信」は写真をふんだんに活用して月内の生活様子を伝えている。職員からは、手紙を家族へ発送し、利用者個々の生活様子を伝える努力を行っている。		突発的な病気の発症には、病院受診の連絡を含めて、その都度家族へ電話報告を行ってきた。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口責任者を設置している。また、苦情相談窓口として、県・市役所の担当部署の電話番号も、重要事項説明書に記載して紹介している。身近な相談事は、職員が来訪される都度、直接聞いて対応を行っている。		苦情が直接でてこないことが残念である。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝、定例会議を実施している。職員からの提案や、ケアの問題協議も同時に行い、記録を残すことで交替勤務の職員全てがケアの継続・維持に努力している。また、ユニット間の情報共有に努めている。		「申し送りノート」を活用して、各職員が書き込みを行うことで、交代勤務における連絡・報告が職員に伝達できる手法を続けている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の突発的な容体急変・職員の突発的な病気には、運営者が各職員へ伝達し、勤務表の変更・調整に努めている。ターミナルの家族には、勤務表や運営者の携帯番号を提供し、常に連絡・相談が取れるように工夫している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は、正規社員として雇用し、就業不安を排除することに努力しているが離職希望があった場合は、可能な限り遺留の説得を行う。離職・異動に伴う職員変更の際は、業務研修期間を設定し、利用者とのコミュニケーションで顔なじみの環境作りに努めている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県が推奨するきくちゃん体操や、介護に関するセミナーなど、希望に応じて受講する機会を与える努力をしている。		セミナー受講は、勤務カウントする関係から現場の職員配置の上で困難を来している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	菊池・山鹿地域GH研修会に積極的に参加している。GH相互における問題点の勉強会を行ったり、相互のホーム見学・介護実務の研究・研鑽を行うよう努めている。また、GH研修会場として「地域交流場」の提供を行った。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	狭隘ながらも「休憩室」を設置し、職員相互の憩いの場とした。職員の自発的なバーベキュー会や懇親会を行っている。	○	運営者・管理者は、職員の能力・技量を個別に把握して職員間における業務上のストレスが解消できるよう指導を行う必要性を感じている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	現場責任者による人事考課を行い、少ないながらも賞与支給配分率で評価している。また、職種のステップアップ(国家試験)を支援している。職員の提案を尊重し、ケア向上になることで、運営者・職員相互の信頼関係作りに努めている。		職員の向上心は、「やりがいのある仕事」であることが重要だが、仕事の対価である給与・処遇面は厳しいものがある。福祉という概念だけで職員の「向上心」や、「やりがいのある仕事」とはなりにくいように思っている。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の家族等と面会し、生活背景や家族関係を十分聞き取ったうえで、本人との面会を行い、初対面時から安心感を持って頂き、自由な会話を行う中で本人の希望を引出すように努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談時から、可能な限りの情報を聞き取り、家族の思いを受け止めるように努めている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の身体的レベルや、相談時が満室で入居困難な場合等は、他のホームの住所や連絡先を紹介したり、施設への入居申込を勧めたりして、家族・本人に合った情報の提供に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居日の決定までに、本人が過ごしやすい住環境の整備を行うとともに、馴染みの家具の持ち込みや入居となるホームの説明を本人に事前にお話している(名刺渡し)。また、可能な限り馴染んで頂くために、入居時刻は、午後3時のおやつ前までに完了し、一緒におやつを食べるなどの工夫に心がけている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>調理や、地域伝統の文化やたしなみなど、昔の経験談を引き出すコミュニケーションに努力している。また、調理や食器洗いや食器拭きなど本人に役割を持って頂き、共に生活している雰囲気作りに努めている。</p>		<p>昨年よりも要介護度の重度化が進行し、今まで構築できた入居者との関わり方も、重度化された入居者介護のためにゆとりをもった関係にならなくなってきているが、今後も支え合う関係の構築に引き続き取り組んでいきたい。</p>
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本人の近況を家族面会時には可能な限り報告をし、必要な物事の話し合いを行っている。</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>家族との外出機会を働きかけたり、面会支援をお願いしている。また、面会時は、ゆっくりとくつろいで頂けるように居室でお茶やお菓子のサービスを行っている。家族写真を撮影し、後日フレームに入れて渡したりしている。</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>職員から「手紙」による近況報告とともに、さりげなく面会支援をお願いしている。また、レク行事計画を一緒にお伝えし、出席をお願いしている。在宅時に馴染みの店(手芸品)だった場所へ職員が付添って外出支援を行っている。</p>		<p>重度化された本人の生活様子を伝えるのも基本生活が中心で介護の内容になってしまい、かえって家族の心的負担とならないか心配している。お盆や正月など自宅帰省が可能な入居者については、外泊支援を行っている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者相互の相性を判断してテーブル配置に心がけている。		食器拭きや簡単な野菜切りは、入居者同士でテーブルを囲んで共同して行ってもらっている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	運営者は契約が終了した家族からの電話や手紙にも気軽に返事を出している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでの暮らしの中で、不満ややりたい事などをさりげなく聞き取っている。毎日の生活様子・本人の顔色や動作などから不安やイライラ感・満足感・充実感などの把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケース記録から、家族背景・生活背景を把握し、入居前に受けていたサービス等は、担当ケアマネからの情報提供書で確認するように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	身体的機能や、認知症レベル等は、入居前本人面会時にアセスメントを取り、処方されている薬の効能などから、心身状態などの把握に努めている。	○	家事手伝いが可能だった利用者も加齢とともに認知症レベル・身体レベルが低下しつつあり、より良い暮らし方の提供と支援に悩んでいる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意向・本人の意向を可能な限り把握して、ケース記録に基づき具体的な介護計画を作成し、家族に説明するように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎朝開催する定例会議において、ケアの方法等に変化が生じた場合は、介護計画書に朱書きで加筆しながら現状に即したケアサービスに努めている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録表に日中活動・摂食・バイタル・生活行動を記録している。また、職員からの気づきや提案があれば定例会議にかけて協議している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族面会時間に制限を設けず、いつでも何時でも面会可能としていることから仕事帰りの面会や、一緒に昼食を食べたりできる環境を作っている。		病院受診サービスに合わせて利用者の希望にそった自宅訪問支援を行っている。たばこを喫煙される利用者には、希望銘柄を調べて購入している。利用者を伴って一緒に夕食の買物に出かけている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小学校・保育園との交流には、利用者の年齢や身体状況に応じた交流となるよう協力を頂いている。	○	レク以外での利用者の話し相手になるような地域ボランティアの受入に取り組みたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要が生じれば、その都度、支援できるように努める。		身体的レベルから施設入居(特養)が利用者にとって、身体的負担が軽減される場合があり、家族の意向に沿って入居相談にいったが、現にホーム入居されているならば入居順位が先送りとなるとの回答だったことがある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要が生じれば、その都度、支援できるように努める。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携及び医療機関の協力を頂いて利用者の健康保持、適切な薬の処方を受けている。		利用者の入居前のかかりつけ医への通院を希望する場合、距離・時間等を考慮して可能な限り受診サービスを行っている。外来受診困難な利用者には、かかりつけ医の訪問にて点滴をして頂いた。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科の病院にも協力医療機関となって頂き、利用者の不穏言動による処遇困難な場合は、職員・利用者の双方が相談できるように協力を頂いている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームの職員に看護師がおり、利用者の健康状態を把握し、気付きや異変を感じた時は的確なアドバイスをしている。職員からの利用者に関する健康相談にも応じている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、入院に必要な生活用具の持ち込みに協力し、生活状態や薬の処方など、ホームの情報提供を行っている。早期退院に向けて病院見舞支援を行い、顔なじみのつながりが維持・継続できるよう努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向を尊重し、ホームでの生活を希望される場合は、今後発生する課題等を協議し、場合によってはターミナル協議書を作成して医療機関への提供・協力を頂くことを事業所の方針としている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	職員の勤務表を家族へ提供し、また、緊急連絡体制を確保するなど、交替勤務の中にあっても職員全員が方針・手順を確認して対応するように努めている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホームでの生活様子を情報提供し、利用者本位の住環境が可能となるよう協議する。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録は、利用者個々にワンシートとして、目立たなくし、利用者に寄り添いながら見守りの中で記録するように心がけている。親しき仲でも尊敬の態度で接するように心がけている。	○	利用者の中には難聴者や、大声での会話を好まれる場合があり、全ての場面でプライバシーに配慮した対応になっていない時がある。「あうん」の呼吸・間合いでさりげなく介助できるよう努力したい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	当日に着用する洋服の選択、個室での休憩、テレビ番組の決定や、テレビ番組の紹介や献立の希望など、日常生活の中で選ぶ場面作りに努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本生活はケアプランにより大まかな日課として定めてあるが、居室での休憩を好まれる方、気分により部屋食がしたい方などその日、その日の中で利用者の希望に沿って支援するように努めている。		自立された利用者は、本人の希望に沿って入浴をされている。入浴が嫌いで、テレビを見ることを好まれる利用者も気分に合わせて入浴にしている。レク行事の時間であっても、利用者が散歩したいという気持ちであれば散歩して頂いている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>可能な限り、利用者がしたいことを引き出して支援するように努めている。重度の方の服選びは、「今日はこれにしましょうか」「今日はこの服がいいですよ」等の話しかけを行い納得・理解を得る形で支援している。訪問理容により毎月カット協力をして頂いている。身体の運動に制限のある利用者には、家族へ相談して衣類の着脱が本人に無理のないものを持ち込んで頂いた。また、手直しをして着脱が負担にならない工夫を行った。</p>	<p>自宅訪問時は、利用者が自ら選んだ洋服を着て頂いている。自立されている方は、その希望のままにして頂いている。馴染みの理容を利用されたい方は、病院受診サービスに合わせて訪問支援している。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>毎日の献立を職員が考えて利用者の好き嫌いを念頭に買物に行っている。天気が良い日は、利用者を伴って買物をしている。利用者は簡単な野菜切りや、食器拭き・食事準備や、片付けのための下膳を行い、職員は感謝する声かけで共に生活をしている雰囲気作りに努めている。</p>	<p>利用者は、自前のエプロンを着用してキッチンで一緒に食事準備をしている。おしぼりの洗濯や、テーブル拭きなど利用者がそれぞれ役割を分担して生活している。一部利用者が嫌いなおかずがメインになる場合には、その方だけ別の献立を提供している。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>希望に合わせた提供を日常的に行っている。10時のおやつ、3時のおやつに限らず、本人のその時の心身状態に合わせて提供するよう努めている。</p>	<p>居室で自由に食べたい利用者の方には、居室におかしをおいている。たばこを好まれる方には専用の喫煙所で自由に喫煙していただいている。夜間にお腹がすいて眠れない方にはちょっとしたお菓子やおにぎりを作って提供している。アルコール依存症の方がいらっしゃるためお酒の提供はやめている。</p>
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄チェック表により、適時誘導に心がけている。乳製品の提供で自然排便の習慣作りに努めている。</p>	<p>加齢とともに、身体機能が低下しており、気持ちよく排便していただくために、排泄チェックに基づき処方されている下剤を調整して服用して頂いている。代謝機能・身体機能の維持を図るため毎朝の体操を日課としている。</p>
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>自立された利用者や、入浴希望の意思表示ができる利用者の方は希望に合わせて入浴をして頂いている。</p>	<p>同性による入浴介助が必要な方や、全介助が必要な方は、その日の職員配置で計画した入浴にならざるを得ない。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室での休憩や、居室でのテレビ観賞など、思い思いの生活ができるよう見守りに努めている。逆に、一人が寂しい方には相性の合う利用者同士で会話や塗り絵などで楽しんで頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器拭きや洗濯物たみ、おしぼり洗いなど、その方のレベルに合わせた役割事をもって頂いて支援している。		自力での散歩・新聞による番組調べ・夕刊の居室届・テーブル拭き・おしぼり洗い・パズル遊び・調理手伝い・買物など、その方の役割・楽しみごとを支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は、物盗られ妄想の最大の要因となるため、開設時から利用者の方のお金の所持はお断りしている。本人の希望でお金を使用しての買物は家族へ協力をお願いしている。また、利用者が希望する物品の購入は、ホーム管理金を使用している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望により自力での散歩を支援している。外出・外泊は、家族へ協力をお願いしている。天気の良い日は、一緒に買物に出かけている。	○	基準配置以上のスタッフ数を確保しているが、利用者のレベルに合わせて全ての場面で事業所だけが支援することは困難である。家族への働きかけに努力したい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ピクニックレクや花見レクを利用者を伴って支援している。地域行事である運動会やクリスマス発表会に利用者を伴って参加している。	○	家族ミニ旅行などに取組たいが、何よりも家族協力が必要となる。検討したい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望により、電話支援を行っている。		県外にいる子どもに対して手紙を出す支援を行った。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に制限がなく、いつでも面会可能としており、面会時は、居室でお茶やお菓子を提供してゆっくりくつろいで頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないということを、事業所全体で考えて取り組んでいる。		車椅子からの転落防止のため、家族との協議書を作成して車椅子テーブルを装着している。ベッドからの転落事故防止のため、重度の方の就眠時には床にマットレスをしいている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の鍵は利用者本人に任せており職員がかけることはない。玄関は、職員の目が届かないため、危険防止のため中から外へは電気ロックを行っている。外からの訪問は、自由にできるようにしている。		発作的に外へ出ようとされる方がおり、玄関ドアはやむなくロックしている。居室は、間違っって鍵をかけられ外へ出られなくなった利用者がおられ、その方の居室ドアは逆に鍵がかからないように工夫している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	生活空間の中心にキッチンを設置しているため、常に利用者の動作を見守るように工夫している。夜間は、定時に訪室し様子の把握に努めている。		身体機能低下が著しい方のケアを行っている際は、軽度の方の多動を見守れない場合がある。スタッフ数の限界を感じている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	あくまでも、施設と違った住居空間を提供することに心がけている。レベルに合わせて居室でハサミやカミソリを使用される方には、本人の希望により居室で所持して頂いている。薬は手が届かない場所で一括管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤薬事故防止のため、利用者個々に週間分薬ケースで管理し、服薬介助者氏名を記録するように工夫している。事故・未然事故にかかわらず「ひやりはっと報告書」を作成し、改善策・対処策を協議している。また、内容は運営推進会議にも報告し、家族との共有に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者急変に対しては、応急手当マニュアルを常備している。	○	定期的訓練ができていない。全職員が訓練できるように努めたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	全電化システムにより火災発生は考えられにくいですが、消防法以上の消火器を配置し、火災に備えている。緊急通報システムを設置している。		消防法の改正により、管理者は防火管理講習を受けて防火総合訓練を実施した。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居前に、職員の配置数や夜間体制の説明を行う中で、入居予定者の身体的レベル等を協議し、その際のリスク等も協議している。居室の環境整備でリスク軽減を図るため家族に対しては、その都度、話し合っている。		重度の方の場合は、ベッドからの転落事故緩和のため就寝時にはフロアにマットレスを敷いている。ベッドから自力離床される方は、離床時の起きあがりを容易にするため木製ベッド柵を作成して取り付けている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックで、健康管理を行っている。本人の顔色・状態・排便・排尿の状態を常に職員は見えており、体調異変に気付いた場合は、すぐに報告し、申送りを行うように努めている。状態によっては、病院受診を行っている。		必要に応じて、採尿・採便を行ったり、介護記録表をフルに活用して、詳細記録に努力している。介護スタッフに看護師がおりアドバイスを求めている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の介護ファイルに看護サマリーや、服薬処方箋がファイリングされているため、職員は把握している。		入居にあたって、新しく処方された薬により利用者の状態に異変を感じた場合は、薬の副作用を考慮し、医療機関へ相談の上、服薬を中止した。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防のため、乳製品を提供している。また、毎朝の日課である体操で身体機能維持に努めている。場合によっては、腹圧マッサージを施行するように努めている。		身体機能の低下にともない便秘されるため、排泄チェック表に基づいて排便コントロールを処方された下剤や市販の浣腸液等で行っている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯ブラシ・歯間ブラシ・スポンジブラシを使用し、口腔内の状態・利用者の状態でケア、支援を行っている。		訪問歯科の協力で、歯の治療はもとより、口腔ケアも行ってもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録表で摂食評価を行っており、利用者個々の摂取栄養を大まかに把握できる工夫をしている。水分は、定時(食事・午前10時・午後3時)及びスポットで提供することで、1日の摂取水分量を把握するよう努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを常備している。ノロウイルス対策として、毎食前には塩素系漂白剤を使用したおしぼりで手を拭いてもらっている。利用者家族の同意を得て、インフルエンザ予防接種を毎年受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	アルコール洗浄液及びEM菌液を使用して抗菌・消毒に努めている。水回りは、清潔を保つように努めている。		EM菌液は、生活空間の全域で使用可能なため、リビング・トイレでも使用している。また、冬場は、乾燥しやすいためリビングの空間噴霧を行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外壁がないことで、近隣住民も入りやすい環境を作っている。玄関前には花壇やスロープにはプランター(季節による)をおいて緊張感をほぐす工夫をしている。目印となり、法人(沖繩)をイメージできるシーサーを建物壁面に飾り付けている。		シーサーの謂われは、神社にある狛犬の「あうん」と、同じ意味合い(「あ形」は、幸福を呼び込み、「うん形」は、魔を寄せ付けない)があり、初めての来訪者には会話の切出しやきっかけとなり、法人の地域性も理解して頂いている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通に家庭で使用されている調度品を配置することで、居心地の良い生活感があるものになっている。季節に合った工芸品や習字、正月飾りやクリスマス飾りなどで季節を感じて頂く工夫をしている。また、隣接する保育園児童の笑い声で、プールの遊びをしていたり、運動会のお遊戯であったり、季節行事も聞き取れるようになっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	地域交流広場には、机・椅子がおいてあり、ホームのアルバムがあることで、写真を広げて見て頂いたり、テレビを見て頂くことができる工夫をしている。リビングのソファは気があった利用者が一緒にテレビを見たりできるように工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家庭で使っていた家具を持ち込んで頂くように家族にお願いしており、布団やタンス・テレビなどを運んで居室へ持ち込んで頂いている。	○	持ち込んで頂いたタンスでは、収納できず、床においてある日用品があり居室全体が散らかって見える場合がある。収納家具の持ち込み又は簡易収納ケースの購入を今後、家族と協議したい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビング及び居室は、換気扇を稼働している。また、エアコンによる室温管理に注意している。天気の良い日は、窓を開放し、空気の入れ換えに努めている。		尿臭・加齢臭がある場合、居室の目立たない場所に消臭剤を設置して、環境作りに努めている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニバーサルデザインに配慮した建築設計であり、手すりやフラット床となっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	表札や顔写真を居室に飾ったり、トイレの標識を貼り付けて混乱がないように工夫している。		他居室の開閉や自室ドアの開閉音に苦情があった際は、自室をカーテンにして本人の混乱を防止し、他者からの苦情が出ないよう工夫した。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関口の花壇や家庭菜園に利用者を伴って栽培・収穫・植え付け作業を行っている。ベランダのプランター栽培を季節によって行っている。		収穫した野菜をその日の献立に活かして食べて頂いている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームにおける行事や利用者の生活様子について写真を活用した「友遊通信」の定期発行で家族は、いながらにして入居者の生活様子や表情を知って頂ける。(毎月の通信を楽しみにされている家族もいらっしゃる。) 職員は、業務時間外でも次回のレク行事の企画を考えたり、工作レクのアイデアや準備をするなど、入居者に対して献身的姿勢で取り組んでいる。地域交流を併せた「夏祭り」を継続して開催することができた。地域児童・園児の楽しみごととして定着しつつあり、今後も継続できるよう努力したい。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人久仙会 たしま友遊苑
(ユニット名)	2Fユニット
所在地 (県・市町村名)	熊本県 菊池市 泗水町 田島 616-1
記入者名 (管理者)	谷口 勇一 (ホーム長)
記入日	平成21年1月16日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自に「地域(人)に愛されるホーム」を理念として心がけてきた。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着型サービス事業所として、地域に根ざした事業所になるよう、独自の夏祭りを開催するなどして、地域交流に努めてきた。特に、保育園・小学校児童との交流には、学校長先生や保育園長先生の協力を頂いた。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関入口に、理念はもとより、重要事項説明書の掲示を行うとともに、毎月の行事計画も展示して周知努力を行っている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	温泉施設の方や、団地の方などの挨拶に心がけている。独自の夏祭りには、チラシを団地内の各家庭へ配布し、たしま友遊苑の認知度向上・地域交流に努めている。	団地の方には、あまり興味がないようでなかなか、お茶のみに立ち寄るとか気軽な来訪にはなっていない。また、玄関口に地域交流広場を設けているが、レク活動以外時は、無人となるため、立ち寄り難い面があるのかもしれない。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域交流広場を自治会会場として提供している。また、来訪者にはお茶などのサービスを行っている。地域行事には可能な限り利用者を伴って参加している。また、パチンコ屋さんのボランティア案内でパチンコ祭りには、現役当時大好きだった利用者に参加して頂いた。	身体的レベル・認知症レベルで全ての利用者・職員が地域行事に参加することができない。また、小規模での交替勤務では、地域行事参加に対して弾力的な対応(職員配置勤務表と行事案内のタイムラグ)は困難である。
6	<input type="checkbox"/> 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域社協との連携で家族介護教室への会場提供及び参加をしてきた。新たに発足される地域支援活動の発足セミナーに参加してきた。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価勉強会を行い、全ての職員の意見反映及び意見集約・運営者から見る評価の協議を行った。また、改善項目は、運営推進会議にも図り、可能なものについて改善するよう努めてきた。</p>	<p>○</p> <p>経費が発生するものは、家族負担ともなり、できない面がある。運営推進会議への家族参加と、改善すべき問題点の家族共有が課題である。(部屋が散らかっている・収納ケースが不足・購入には経費がかかる・同意が得られない・居室内の立入を拒む利用者等の課題) 家族からの協力及び家族への働きかけに努力したい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営会議では、サービスの内容を詳細な資料として作成配布して話し合っている。また、外部評価結果・指摘事項・改善項目・外部評価時の様子など、運営推進会議で報告し、家族意見も集約した。</p>	<p>スタッフ数の限界・家族からの意見が少ない(遠慮されている)などで、全てをくみ上げてサービス向上に活かされるとは限らない。検討したい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に行政担当者も構成委員になってもらっている。可能な限り行き来するよう努めている。また、指定研修の申込には、行政サイドに相談にのって頂き、協力と理解を頂いている。</p>	<p>運営者・管理者を含む全ての職員が介護業務を兼務しているため、窓口となっていていつでも動ける環境にない。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>運営者が相談窓口となっている。成年後見人制度手続では、書類作成を協力した。</p>	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修会・セミナーがあれば積極的に参加を促す。特に、管理者や相談員の職責にいる者は現場責任者であることを自覚し、注意するよう促している。</p>	<p>○</p> <p>職員にその気持ちがあるわけではなくても、言葉の暴力につながりかねない言葉使いがある場合がある。冗談のつもりで発した言葉でも、言葉使いで「言葉の虐待」になる時がある。管理者を含めて今後も注意を払うよう促していきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居相談時に、重要事項説明書を渡して説明。一問一答式で対話している。入居契約前に事前に契約書を渡して、熟読と再考を促している。</p>	<p>○</p> <p>家族との間で入居後のトラブルはないものの、誤解がある場合がある。入居後も可能な限り家族とのコミュニケーションの必要性を感じている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口責任者を設置している。また、苦情相談窓口として、県・市役所の担当部署の電話番号も、重要事項説明書に記載して紹介している。		利用者の苦情や相談は、運営者・管理者が直接、話を聞いて苦情・相談解決に取り組んでいる。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、家族へ発送する「友遊通信」は写真をふんだんに活用して月内の生活様子を伝えている。職員からは、手紙を家族へ発送し、利用者個々の生活様子を伝える努力を行っている。		突発的な病気の発症には、病院受診の連絡を含めて、その都度家族へ電話報告を行ってきた。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口責任者を設置している。また、苦情相談窓口として、県・市役所の担当部署の電話番号も、重要事項説明書に記載して紹介している。身近な相談事は、職員が来訪される都度、直接聞いて対応を行っている。	○	苦情が直接でてこないことが残念である。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝、定例会議を実施している。職員からの提案や、ケアの問題協議も同時に行い、記録を残すことで交替勤務の職員全てがケアの継続・維持に努力している。また、ユニット間の情報共有に努めている。		「申し送りノート」を活用して、各職員が書き込みを行うことで、交代勤務における連絡・報告が職員に伝達できる手法を続けている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の突発的な容体急変・職員の突発的な病気には、運営者が各職員へ伝達し、勤務表の変更・調整に努めている。ターミナルの家族には、勤務表や運営者の携帯番号を提供し、常に連絡・相談が取れるように工夫している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は、正規社員として雇用し、就業不安を排除することに努力しているが離職希望があった場合は、可能な限り遺留の説得を行う。離職・異動に伴う職員変更の際は、業務研修期間を設定し、利用者とのコミュニケーションで顔なじみの環境作りに努めている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県が推奨するきくちゃん体操や、介護に関するセミナーなど、希望に応じて受講する機会を与える努力をしている。		セミナー受講は、勤務カウントする関係から現場の職員配置の上で困難を来している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	菊池・山鹿地域GH研修会に積極的に参加している。GH相互における問題点の勉強会を行ったり、相互のホーム見学・介護実務の研究・研鑽を行うよう努めている。また、GH研修会場として「地域交流場」の提供を行った。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	狭隘ながらも「休憩室」を設置し、職員相互の憩いの場とした。職員の自発的なバーベキュー会や宴会を設けている。	○	運営者・管理者は、職員の能力・技量を個別に把握して職員間における業務上のストレスが解消できるよう指導を行う必要がある。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	責任者による人事考課を行い、少ないながらも賞与支給配分率で評価している。また、職種のステップアップ(国家試験)を支援している。職員の提案を尊重し、ケア向上になることで、運営者・職員相互の信頼関係作りに努めている。		職員の向上心は、「やりがいのある仕事」であることが重要だが、仕事の対価である給与・処遇面は厳しいものがある。福祉という概念だけで職員の「向上心」や、「やりがいのある仕事」にはなりにくいように思ってしまう。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の家族等と面会し、生活背景や家族関係を十分聞き取ったうえで、本人との面会を行い、初対面時から安心感を持って頂き、自由な会話を行う中で本人の希望を引出すように努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談時から、可能な限りの情報を聞き取り、家族の思いを受け止めるように努めている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の身体的レベルや、相談時が満室で入居困難な場合は、他のホームの住所や連絡先を紹介したり、施設への入居申込を勧めたりして、家族・本人に合った情報の提供に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居日の決定までに、本人が過ごしやすい住環境の整備を行うとともに、馴染みの家具の持ち込みや入居となるホームの説明を本人に事前にお話している(名刺渡し)。また、可能な限り馴染んで頂くために、入居時刻は、午後3時のおやつ前までに完了し、一緒におやつを食べるなどの工夫に心がけている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>調理や、地域伝統の文化やたしなみなど、昔の経験談を引き出すコミュニケーションに努力している。また、調理や食器洗いや食器拭きなど本人に役割を持って頂き、共に生活をしている雰囲気作りに努めている。</p>	○	<p>昨年よりも要介護度の重度化が進行し、今まで構築できた入居者との関わり方も、重度化された入居者介護のためにゆとりをもった関係にならなくなってきているが、今後も支え合う関係の構築に引き続き取り組んでいきたい。</p>
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本人の近況を家族面会時には可能な限り報告をし、必要な物事の話し合いを行っている。</p>		<p>運営者は、相続問題や、家族問題があった時は一緒に相談に入って問題解決の努力を行っている。ターミナル期にある方には家族面会支援を働きかけて、職員とともに思い出作り支援を行った。</p>
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>家族との外出機会を働きかけたり、面会支援をお願いしている。また、面会時は、ゆっくりとくつろいで頂けるように居室でお茶やお菓子のサービスを行っている。家族写真を撮影し、後日フレームに入れて渡したりしている。</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>職員から「手紙」による近況報告とともに、さりげなく面会支援をお願いしている。また、レク行事計画を一緒にお伝えし、出席をお願いしている。病院受診に併せて自宅へ外泊ができるよう支援している。</p>		<p>重度化された本人の生活様子を伝えるのも基本生活が中心で介護の内容になってしまい、かえって家族の心的負担とならないか心配している。お盆や正月など自宅帰省が可能な入居者については、外泊支援を行っている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者相互の相性を判断してテーブル配置に心がけている。		食器拭きや簡単な野菜切りは、入居者同士でテーブルを囲んで共同して行ってもらっている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	運営者は契約が終了した家族からの電話や手紙にも気軽に返事を出している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでの暮らしの中で、不満ややりたい事などをさりげなく聞き取っている。毎日の生活様子・本人の顔色や動作などから不安やイライラ感・満足感・充実感などの把握に努めている。		利用者と相性(信頼関係が深い)の良い職員が、利用者の希望を聞き取り、利用者の意向や希望を周囲のスタッフへ伝達している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケース記録から、家族背景・生活背景を把握し、入居前に受けていたサービス等は、担当ケアマネからの情報提供書で確認するように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	身体的機能や、認知症レベル等は、入居前本人面会時にアセスメントを取り、処方されている薬の効能などから、心身状態などの把握に努めている。	○	家事手伝いが可能だった利用者も加齢とともに認知症レベル・身体レベルが低下しつつあり、より良い暮らし方の提供と支援に悩んでいる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意向・本人の意向を可能な限り把握して、ケース記録に基づき具体的な介護計画を作成し、家族に説明するように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎朝開催する定例会議において、ケアの方法等に変化が生じた場合は、介護計画書に朱書きで加筆しながら現状に即したケアサービスに努めている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録表に日中活動・摂食・バイタル・生活行動を記録している。また、職員からの気づきや提案があれば定例会議にかけて協議している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族面会時間に制限を設けず、いつでも何時でも面会可能としていることから仕事帰りの面会や、一緒に昼食を食べたりできる環境を作っている。		利用者が希望する買物品を聞き取り、毎日の買物で対応している。利用者を伴って一緒に夕食の買物に出かけている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小学校・保育園との交流には、利用者の年齢や身体状況に応じた交流となるよう協力を頂いている。	○	レク以外での利用者の話し相手になるような地域ボランティアの受入に取り組みたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要が生じれば、その都度、支援できるように努める。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要が生じれば、その都度、支援できるように努める。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携及び医療機関の協力を頂いて利用者の健康保持、適切な薬の処方を受けている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科の病院にも協力医療機関となって頂き、利用者の不穏言動による処遇困難な場合は、職員・利用者の双方が相談できるように協力を頂いている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームの職員に看護師がおり、利用者の健康状態を把握し、気付きや異変を感じた時は的確なアドバイスをしている。職員からの利用者に関する健康相談にも応じている。異変時のアドバイスでスタッフが次の行動へスムーズに対応できている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、入院に必要な生活用具の持ち込みに協力し、生活状態や薬の処方など、ホームの情報提供を行っている。早期退院に向けて病院見舞支援を行い、顔なじみのつながりが維持・継続できるよう努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向を尊重し、ホームでの生活を希望される場合は、今後発生する課題等を協議し、場合によってはターミナル協議書を作成して医療機関への提供・協力を頂くよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	職員の勤務表を家族へ提供し、また、緊急連絡体制を確保するなど、交替勤務の中にあっても職員全員が方針・手順を確認して対応するように努めている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホームでの生活様子を情報提供し、利用者本位の住環境が可能となるよう協議する。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録は、利用者個々にワンシートとして、目立たなくし、利用者に寄り添いながら見守りの中で記録するように心がけている。親しき仲でも尊敬の態度で接するように心がけている。	○	利用者の中には難聴者や、大声での会話を好まれる場合があり、全ての場面でプライバシーに配慮した対応になっていない時がある。「あうん」の呼吸・間合いでさりげなく介助できるよう努力したい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	当日に着用する洋服の選択、個室での休憩、テレビ番組の決定や、テレビ番組の紹介など、日常生活の中で選ぶ場面に作りに努めている。		買物を頼まれる利用者には、希望の物を探して来ている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本生活はケアプランにより大まかな日課として定めてあるが、居室での休憩を好まれる方、気分により部屋食がしたい方などその日、その日の中で利用者の希望に沿って支援するように努めている。		自立された利用者は、本人の希望に沿って入浴をされている。入浴が嫌いな方は、気分に合わせて入浴にしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>自宅訪問時は、利用者が自ら選んだ洋服を着て頂いている。自立されている方は、その希望のままに頂いている。馴染みの理容を利用されたい方は、家族の協力を頂いて理容をされている。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>毎日の食器拭きや簡単な野菜切りをテーブルを囲んで行っている。洗濯物をたたんだり、一緒に下膳したりして、本人の役割や分担をもって頂き生活を支援している。嫌いなものがメインのおかずになる場合は、その利用者だけ違う献立を提供している。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>希望に合わせた提供を日常的に行っている。10時のおやつ、3時のおやつに限らず、本人のその時の心身状態に合わせて提供するよう努めている。</p> <p>希望により居室でのお茶の提供や希望されたお菓子の提供をしている。牛乳を自分の生活習慣としている方には、本人の希望に合わせて提供している。</p>
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		<p>排泄チェック表により、適時誘導に心がけている。乳製品の提供で自然排便の習慣作りに努めている。</p> <p>加齢とともに、身体機能が低下しており、気持ちよく排便していただくために、排泄チェックに基づき処方されている下剤を調整して服用して頂いている。代謝機能・身体機能の維持を図るため毎朝の体操を日課としている。</p>
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		<p>自立された利用者や、入浴希望の意思表示ができる利用者の方は希望に合わせて入浴して頂いている。</p> <p>同性による入浴介助が必要な方や、全介助が必要な方は、その日の職員配置で計画した入浴にならざるを得ない。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室での休憩や、居室でのテレビ観賞など、思い思いの生活ができるよう見守りに努めている。逆に、一人が寂しい方には相性の合う利用者同士で会話や塗り絵などで楽しんで頂いている。		利用者のその日の気分で利用者同士でロげんかがある場合は、職員が間に入りトラブル回避のためソファなどでくつろげるように工夫している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器拭きや洗濯物たみ、おしぼり洗いなど、その方のレベルに合わせた役割事をもって頂いて支援している。		うさぎの世話・食器拭き・朝刊の居室届・居室テレビ・台ふき・プランターなど、その方の役割事や楽しみごとを支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は、物盗られ妄想の最大の要因となるため、開設時から利用者の方のお金の所持はお断りしている。本人の希望でお金を使用しての買物は家族へ協力をお願いしている。一部利用者のみ、お金を所持されており、買物時に受け取って替わりに買物をしたことがあるが、現在は、ホーム管理金を使用して、利用者の希望する物品の購入を行うようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望により自力での散歩を支援している。外出・外泊を希望される方には、家族へ協力をお願いしている。	○	基準配置以上のスタッフ数を確保しているが、利用者のレベルに合わせて全ての場面で事業所だけが支援することは困難である。家族への働きかけに努力したい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ピクニックレクや花見レクを利用者を伴って支援している。地域行事である運動会やクリスマス発表会に利用者を伴って参加している。	○	家族ミニ旅行などに取組たいが、何よりも家族協力が必要となる。検討したい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に制限がなく、いつでも面会可能としており、面会時は、居室でお茶やお菓子を提供してゆっくりくつろいで頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないということを、事業所全体で考えて取り組んでいる。		自力での立ち上がりを可能とするベッド柵に作り直して生活して頂いている。脚力が弱まった利用者には、センサーマットを装着して可能な限り自力支援を促す一方で事故に対する早期察知に努めている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の鍵は利用者本人に任せており職員がかけることはない。玄関は、職員の目が届かないため、危険防止のため中から外へは電気ロックを行っている。外からの訪問は、自由にできるようにしている。		発作的に外へ出ようとされる方がおり、玄関ドアはやむなくロックしている。居室は、間違っても鍵をかけられ外へ出られなくなった利用者がおられ、その方の居室ドアは逆に鍵がかからないように工夫している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	生活空間の中心にキッチンを設置しているため、常に利用者の動作を見守るように工夫している。夜間は、定時に訪室し様子の把握に努めている。		身体機能低下が著しい方のケアを行っている際は、軽度の方の多動を見守れない場合がある。スタッフ数の限界を感じている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	あくまでも、施設と違った住居空間を提供することに心がけている。レベルに合わせて居室でハサミやカミソリを使用される方には、本人の希望により居室で所持して頂いている。薬は手が届かない場所で一括管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤薬事故防止のため、利用者個々に週間分薬ケースで管理し、服薬介助者氏名を記録するように工夫している。事故・未然事故にかかわらず「ひやりはつと報告書」を作成し、改善策・対処策を協議している。また、内容は運営推進会議にも報告し、家族との共有に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者急変に対しては、応急手当マニュアルを常備している。	○	定期的訓練ができていない。全職員が訓練できるように努めたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	全電化システムにより火災発生は考えられにくいですが、消防法以上の消火器を配置し、火災に備えている。緊急通報システムを設置している。		消防法の改正により、管理者は防火管理講習を受けて防火総合訓練を実施した。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居前に、職員の配置数や夜間体制の説明を行う中で、入居予定者の身体的レベル等を協議し、その際のリスク等も協議している。居室の環境整備でリスク軽減を図るため家族に対しては、その都度、話し合っている。		ベッドから自力離床される方は、起きあがりを容易にするように木製のベッド柵を作成している。ポータブルトイレへの移動時の転倒防止のため自力排泄可能なベッド柵を作成して取り付けている。転倒が心配される利用者にはベッド下にセンサーマットを取り付けている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックで、健康管理を行っている。本人の顔色・状態・排便・排尿の状態を常に職員は見えており、体調異変に気付いた場合は、すぐに報告し、送送りを行うように努めている。状態によっては、病院受診を行っている。		必要に応じて、採尿・採便を行ったり、介護記録表をフルに活用して、詳細記録に努力している。介護スタッフに看護師がおりアドバイスを求めている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の介護ファイルに看護サマリーや、服薬処方箋がファイリングされているため、職員は把握している。		利用者の心身状況から精神科を受診し、処方された薬の服用開始以後、生活様子を見守り異変を感じた際には、服薬中止を医師に相談して中止した。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防のため、乳製品を提供している。また、毎朝の日課である体操で身体機能維持に努めている。場合によっては、腹圧マッサージを施行するように努めている。		身体機能の低下にともない便秘されるため、排泄チェック表に基づいて排便コントロールを処方された下剤や市販の浣腸液等で行っている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯ブラシ・歯間ブラシ・スポンジブラシを使用し、口腔内の状態・利用者の状態でケア、支援を行っている。		訪問歯科の協力で、歯の治療はもとより、口腔ケアも行ってもらっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録表で摂食評価を行っており、利用者個々の摂取栄養を大まかに把握できる工夫をしている。水分は、定時(食事・午前10時・午後3時)及びスポットで提供することで、1日の摂取水分量を把握するよう努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを常備している。ノロウイルス対策として、毎食前には塩素系漂白剤を使用したおしぼりで手を拭いてもらっている。利用者家族の同意を得て、インフルエンザ予防接種を毎年受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	アルコール洗浄液及びEM菌液を使用して抗菌・消毒に努めている。水回りは、清潔を保つように努めている。		EM菌液は、生活空間の全域で使用可能なため、リビング・トイレでも使用している。また、冬場は、乾燥しやすいためリビングの空間噴霧を行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外壁がないことで、近隣住民も入りやすい環境を作っている。玄関前には花壇やスロープにはプランター(季節による)をおいて緊張感をほぐす工夫をしている。目印となり、法人(沖繩)をイメージできるシーサーを建物壁面に飾り付けている。		シーサーの謂われは、神社にある狛犬の「あうん」と、同じ意味合い(「あ形」は、幸福を呼び込み、「うん形」は、魔を寄せ付けない)があり、初めての来訪者には会話の切出しやきっかけとなり、法人の地域性も理解して頂いている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通に家庭で使用されている調度品を配置することで、居心地の良い生活感があるものになっている。季節に合った工芸品や習字、正月飾りやクリスマス飾りなどで季節を感じて頂く工夫をしている。また、隣接する保育園児童の笑い声で、プール遊びをしていたり、運動会のお遊戯であったり、季節行事も聞き取れるようになっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	地域交流広場には、机・椅子がおいてあり、ホームのアルバムがあることで、写真を広げて見て頂いたり、テレビを見て頂くことができる工夫をしている。リビングのソファは気があった利用者が一緒にテレビを見たりできるように工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家庭で使っていた家具を持ち込んで頂くように家族にお願いしており、布団やタンス・テレビなどを運んで居室へ持ち込んで頂いている。	○	持ち込んで頂いたタンスでは、収納できず、床においてある日用品があり居室全体が散らかって見える場合がある。収納家具の持ち込み又は簡易収納ケースの購入を今後、家族と協議したい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビング及び居室は、換気扇を稼働している。また、エアコンによる室温管理に注意している。天気の良い日は、窓を開放し、空気の入れ換えに努めている。		尿臭・加齢臭がある場合、居室の目立たない場所に消臭剤を設置して、環境作りに努めている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニバーサルデザインに配慮した建築設計であり、手すりやフラット床となっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	表札や顔写真を居室に飾ったり、トイレの標識を貼り付けて混乱がないように工夫している。		夜間帯にリビングで放尿される利用者には、さりげなくトイレへの誘導を行うとともに、汚染カーペットは、その都度洗浄し、防臭・抗菌の対応を行っている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関口の花壇や家庭菜園に利用者を伴って栽培・収穫・植え付け作業を行っている。ベランダのプランター栽培を季節によって行っている。		ベランダでうさぎの餌用として野菜を栽培されている利用者は、収穫の都度、うさぎに与えている。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームにおける行事や利用者の生活様子について写真を活用した「友遊通信」の定期発行で家族は、いながらにして入居者の生活様子や表情を知って頂ける。(毎月の通信を楽しみにされている家族もいらっしゃる。) 職員は、業務時間外でも次回のレク行事の企画を考えたり、工作レクのアイデアや準備をするなど、入居者に対して献身的姿勢で取り組んでいる。地域交流を併せた「夏祭り」を継続して開催することができた。地域児童・園児の楽しみごととして定着しつつあり、今後も継続できるよう努力したい。